



「月の学校 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

先日のスーパームーンの日、2年生で「お月見」の行事があった。学校に夜7時過ぎまで残って、みんなで満月を見よう・・・という趣旨の活動である。私は以前にも、屋上で天体観望会を、何度も開催してきた。しかし、ここ10年ほどは、学校でこうした行事をしていなかったの、本当にワクワクしていた。

満月が昇ってきて、ビル群の上に見えるようになるのは、午後7時以降である。この日(10月28日)は、下校時刻がいつもよりも4時間も遅くなる。そこで、2年生の登校時刻を10時30分とし、余裕のある日程とした。最初は、グループ別の「月の活動」の博覧会。



これは、算数のグループ。月見団子を、どんなふうを重ねるとうまくいくか・・・という研究だ。紙粘土で作った丸い団子を、実際に手作りの「三方」の上に積む体験ができる。なかなか、よく考えられている、体験コーナーだ。



これは、月に関係のある、自作のかかるたグループ。楽しそうに遊びながら、作品のことを伝えていた。



これは、「月の研究」のグループ。「月の大きさ」「月の形のいろいろ」「ほかのわく星の月」「月のれきし」「もし月がなかったら?」「月のクイズ」など、テーマは豊富だった。調べ学習が中心で、発表する側も、説明を聞く側も、意味もよくわかっていないものも多かった。しかし、子どもたちなりに、よくまとめて発表していたように思う。



こちらは、書道のグループ。「月見」という字を書く体験ができて、大人気だった。

写真にはないが、このほか、月のお菓子(月見どら焼き)づくりの班、月の劇を発表する班もあった。子どもたちは、自由にまわって、ワイワイガヤガヤ、なかなか楽しい「月博覧会」であった。